



第16号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2010年4月11日

## 若い教会が私たちを導く

宣教師、サレジオ会員、  
サレジオ・ミッションの  
友人の皆さん！

主のご復活おめでとうございます。  
今、私たちは聖霊降臨に向けて歩んでいます。マリアと共に集まっていた弟子たちの上に降った聖霊は、復活されたキリストを証しする力を弟子たちに与えました。若々しい教会の人々を訪ねるとき、私はよく自問します。「信仰を分かち合おうとする彼らの宣教の熱意はどこから来るのだろうか？」と。昨日、今日と、洗礼を受けてまもない彼らは、すでに人々と信仰を分かち合っています。宣教師として派遣される者さえいます！台湾、モンゴル、タイ、カンボジア、ラオスなど、キリスト教徒が人口の0.5%しかいない国々で、その小さな共同体は、最も貴重な贈り物として信仰を分かち合うため、すでに小教区や学校の壁を越えて行っています。

私たちは時々、冗談で言います。カトリック信者が少なければ少ないほど、その国は召命が多く、宣教師も多い。その一方、長いキリスト教の伝統のある、カトリック信者の多い国ほど召命は少ないと！

この復活節、復活された主への新鮮な信仰を抱く若々しい教会について、ニュースを見つけるように呼びかけます。聖霊降臨の出来事からインスピレーションを受けましょう。それは21世紀にも起こるのです！

間違いなく、カトリック教会は、長い伝統をもつ教会と若い教会の間のより大きな交流を必要としています。

若者に福音をもたらすため、最初の挑戦は私たちの心の中にあります。私たちは勇気に欠けているのです！恐れでいっぱいになりながらも集まって祈り、聖霊を待った弟子たちの姿勢から光をもらいましょう！

宣教師顧問  
ヴァツラフ・クレメンテ神父

*Václav Clement*



カリエロ 11  
読者の皆さま

主の御復活  
おめでとう  
ございます。

## アジアのための宣教師募集

管区：国	言語	環境・要件
CHN：中国での事業	英語 中国語	若い会員（マカオ、香港、台湾）、特に修道士。活力ある召命が求められている。
FIS：パキスタン	英語 ウルドゥー語	会員が非常に少ない。困難なイスラム教の環境。技術訓練教育。修道士が求められる。
INC：バングラディッシュ	英語・ベンガル語	イスラム教国。2009年にサレジオ会事業が始まる。
SLK：アゼルバイジャン	英語・ロシア語 アゼルバイジャン語	400人ほどのカトリック信徒。穏健なイスラム教。共同体の国際化が求められる。スロバキア人以外。
THA：ラオス	英語 ラオス語	信徒の運営する技術訓練センター。修道士会員が宣教拠点を始める。共産政権。
VET：モンゴル	英語・ロシア語 モンゴル語	会員数が少ない。第一次福音宣教。技術訓練センターのため技術者を求む。厳しい気候。

## ラオスからの手紙

ラオスのビエンチャンからこんにちは。私はカリエロ枢機卿の宣教志願院の同窓生です。宣教志願院で4年間学び、宣教師に志願しました。1958年にタイに派遣され、さまざまな分野、特に学校や養成支部で働きました。



1989年、カンボジアとラオスからの難民のための活動にたずさわることになりました。そして1991年、私たちはカンボジアの首都プノンペンで、地元の貧しい若者たちのため、最初の技術訓練校を開きました。

1994年、私たちはラオスで地元の貧しい若者たちのための技術訓練校を開くために招かれました。できるかぎりのことをしましたが、多くの困難に直面しました。

とうとう2004年、ラオスの首都ビエンチャンで、二つ目のプロジェクトを試みました。初めから大きな困難が予想されました。ラオスは共産主義の国だからです。そのため、聖母の保護を願って、5月24日に仕事に取りかかりました。5人の最初のラオス人同窓生と、コオペラトリーでもある教師が私たちを助けてくれました。

聖母とドン・ボスコの助けによって、多くの困難を乗り越え、今、ドン・ボスコ・センターはラオス各地から来た貧しい若者たちを助けています。若者たちにはしっかりしたサレジオの教育を提供し、職業訓練によって誠実に生きられるように助け、ひいては若者たちの家族、地元の社会を助けています。

ティト・ペドロ神父  
イタリア人宣教師 ラオスのサレジオ会事業責任者

仏教国、ラオス。その中で教会はここ数年、比較的自由に活動しており、現在、4つの使徒座代牧区がある。

1994年、ラオスの駐タイ大使がプノンペンのサレジオ会の技術訓練校開校式典に参加、数週間後、同様の学校をラオスに開設したいと、バチカン大使に援助を求めた。バチカン大使はタイのサレジオ会にこの要請を伝えた。ラオス政府代表者との折衝がすぐに始まったが、政府側の決定が何もないまま暗礁に乗り上げた。

翌年の5月24日、ペドロ神父、教師のサンヤ氏、そして同窓生の5人のラオス人は、ラオスの首都ビエンチャンに到着。法的に認可された組織としてサレジオ会の事業を始めることになった。運営は5人のラオス人同窓生に任せられ、サレジオ会が財政支援と監督を行う。その組織はミトラ・サンファン（友情の絆）と名づけられた。

生徒の数は増え、我々の活動とミトラ・サンファンの取り組みについて知ろうとする政府の役人による訪問が何度かあった。一時的な閉鎖を含む多くの困難の後、2007年、とうとう政府は我々の技術訓練センターに認可を与えた。

2007年5月、ラオスのさまざまな省庁の代表者がプノンペンとバンコクのドン・ボスコ技術訓練校を訪れ、サレジオ会の学校の教育法と共に管理運営の方法を視察した。2008年、ミトラ・サンファンが手狭になり、

共産青年団の責任者たちの助けにより、新しいキャンパスの土地購入の許可が政府から下りた。2009年、新しい場所にドンボスコ・センター・ラオスが開設された。



## アジアは宣教師を歓迎し、また派遣する！

《今日、アジアのほとんどの地域は、ほかの地方教会から奉仕に来る宣教師を、引き続き必要としています。ほかの国々から私たちのもとへ来る宣教師たちを、歓迎します。地元の教会の一部となり、人々と一つになることだけを宣教師に願います。私たちの地元の教会は、その最良の息子、娘たちを、アジアやほかの大陸の姉妹教会に派遣できるようになってきています。》

アジア司教協議会連盟



Salesian Missionary Intention

## 南アジア、東アジアのサレジオ会員のために

南アジア、東アジアの国々のサレジオ会員が、勇気と堅忍をもって、特に教育事業・社会事業において、信仰のあかしと教会への忠実を日々生きることができるよう。

教会が少数派であるアジアでは、正規教育（学校、職業訓練校）と社会事業（ストリートチルドレン、孤児院、危険にさらされた若者、HIV感染者のための活動）は、数多くの未信者の若者との接触を保つ最良の機会となります。祈りの意向はおもに、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、中国、ミャンマー、ベトナムのためです。サレジオ会員が、その機会を生かし、生活のあかしと対話を通して信仰を分かち合えますように。



問い合わせ・ご意見は、[cagliero11@gmail.com](mailto:cagliero11@gmail.com)へ

